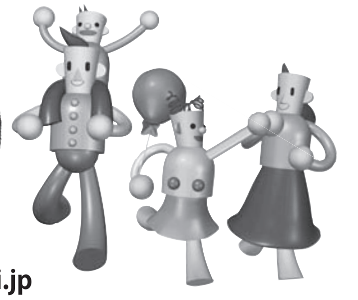
隣保館だより



編集　下榎隣保館　〒689－4526　日野町下榎157番地1
電話：７２－１１９１（FAX兼）
E-mail：rinpokan@town.hino.tottori.jp

1月の学習講座予定
◆生け花（草月流）
講師＝生田清子さん（黒坂）
日時＝1月18日（火）19:30～
場所＝下榎隣保館
申込み・問合せは隣保館まで

笑いと感動に包まれる
町解放文化祭を開催

11月6日、7日の2日間、下榎隣保館・下榎集会所・老人憩の家を会場に「第33回日野町解放文化祭」を開きました。
2日間とも、大勢の参加者でにぎわい、ふれあいの輪が広がりました。

6日（1日目）

出会いの大切さ語る

6日、老人憩の家で開会式の後、黒坂の光西寺住職、鳥居良光さんが『人生2度なし、生かされる日々に感謝しながら〝よし〟と思うことは精一杯ガンバロー』と題して、ご自身の教職員時代の経験をもとに、出会いの大切さ、命の大切さなどをわかりやすく講演されました。

晴天の下で餅つき大会

講演会の後、雲一つない青空の下で、自治会による恒例の餅つき大会。おいしい雑煮とぜんざいをいただき、大勢の人が楽しみました。

アンコール！アンコール！

午後は、おまちかねの日野中学校吹奏楽部演奏会。どこまでがステージで客席なのか境目のない会場は、老人憩の家ならでは。総勢18人の部員の息の合った迫力の演奏にアンコールの嵐。来年の活躍を願いました。

差別に立ち向かう姿に涙

素晴らしい演奏の後、映画鑑賞をしました。「真の人間の豊かさとは何か」を問いながら、人間の尊厳を掲げ、差別に対し、立ち上がっていく人々の姿を描いた住井すゑさんの『橋のない川』を鑑賞し、会場は涙を流す人が見られました。

7日（2日目）

新そばに舌鼓

7日は下榎集会所を会場に「新そばの賞味会」が開かれました。根雨の安達幸博さんの指導の下、地域の有志の皆さんが打った100食のそばと、下榎女性部によるおこわの販売大好評で、あっという間に完売しました。

盛り上がる演芸大会　おひねりも飛ぶ

午後は老人憩の家を会場に、大好評の演芸大会が開かれ、地域住民をはじめ、舟場昭和会、光佳流芳扇会の皆さんなどによる歌と踊り。また、今年で参加2年目になる町男女共同参画推進会議の皆さんに景山町長も加わっての人権劇は、笑いの中で楽しい人権学習のひとときになりました。

力作ぞろいの展示

2日間を通して作品展示の会場となった下榎隣保館と下榎集会所には、隣保館学習講座の作品をはじめ、各種団体の作品や我が家の自慢展など盛りだくさんの力作が展示され、訪れた人々の目を楽しませてくれました。

園児や児童も交流参加

11月8日の午前中にひのっこ保育所が、午後に黒坂小学校と根雨小学校の6年生が展示作品の見学と交流会を開きました。保育所の園児は見学の後、隣保館長から「友達を大切にしよう」という話を聞き、ビデオ鑑賞をしました。

大盛り上がりの演芸大会

『2010年度西部地区女性部交流会』に参加して

10月24日、大山町人権交流センターにおいて「私たちの子育て奮闘記」と題してパネルディスカッションが開かれました。
脳性まひとダウン症の障がい児をもつ2人の母親が、障がいがあると分かったときの心の葛藤から子どもたちの将来への希望や不安など、体験談と問題提議がありました。

【感想】
障がいがあっても、いきいきと生きている子どもたちの話を聞き、力づけられる思いでした。
進行役の坂田かおりさん（米子市中央隣保館）の子どもは健常者であるが、2人と同じ保育所に子どもを通わせることで、子どもたちを通じて友達になったということ。
お互いの抱える悩みは違っても、本音で語り合える関係を築けたことは、とてもうらやましいことでした。
今回の研修は、とても内容の濃いものでした。

日野町人権・同和教育推進協議会広報誌
人権のまち ひの
2010年12月

平成22年度小地域座談会
明日からの地域づくりのために

『さまざまな地域課題から、人権尊重の仕組みを考えよう』
～助け上手、助けられ上手になろう～

今年度の小地域座談会の進め方を話し合う推進員ら（山村開発センター）

小地域座談会は地域づくりのはじめ

11月15日（山村開発センター）、16日（町公民館）に小地域座談会推進員研修会（町人権・同和教育推進協議会主催）を開きました。

座談会世話人の自治会長と進行役の推進者（役場職員ら）の合同研修会。今年度行う座談会の打ち合わせも兼ね、相談しました。

今年度のテーマは『さまざまな地域課題から、人権尊重の仕組みを考えよう』～助け上手、助けられ上手になろう～とし、全地区で「高齢化社会と安心・安全な地域づくり」についても話し合っていただくことにしました。座談会がこれからの地域活動の基礎になれば、とても良いことだと思います。

地域の支え合いを大切に

高齢化の中、さまざまな暮らしの課題が、それぞれの地域にはあると思います。通院・通所に介護、買い物に家事、一人暮らしに話し相手や相談相手、田畑の管理や自治会など地域の役目…挙げれば話題は尽きないと思います。

そのような困りごとは、個人の問題や年寄り、女性だからとか、昔からしてきたこと、決まりごとだからと片付けられたり、気付かないまま見過ごしてしまうことが意外に多いのではないでしょうか。

その結果、苦しい思いや悲しい思いで暮らしたり、あきらめてしまうことはなかったでしょうか。

みんなで話し合いを

地域から認められて大切にされたら希望を持って暮らせます。そのような安心・安全な支え合いの方法をみんなで話し合うことが、これからは大切なことです。

一人暮らしや閉じこもりがちの高齢者、身体の不自由な人や認知症の人の暮らしはもちろんのこと、みんなが今以上に暮らしやすくなるため「助け上手、助けられ上手になろう」を手掛かりに話し合ってみてください。きっと来年から、そして明日からの地域づくりにつながると思います。

実際に出前公民館の中で、座談会を開きました。集まる機会を活用

いろいろな方法で

地域の行事も山積みで多忙です。そこで、ぽかぽか教室や料理教室のついでに、あるいは、出前公民館やグループ活動などに併せて開催したり、隣の自治会と共同で開催するなど、集まりやすい機会に開催するのも方法の一つです。

何が何でも、座談会は全員参加で、個別開催で、というものではありません。

重く、難しく考えなくてもいいんです

「人権の話や小地域座談会はどうも重苦しくて」と思われる人も多いと思いますが、最近、暮らし向きや地域のさまざまな話題に話が進むようになり、参加者のアンケートでも「大変良かった。また参加したい」といった意見をいただくようになりました。

座談会は気楽に将来の夢や困りごとが語り合えることが一番大切です。みんなの心配ごと、困りごとなど身近な暮らしの話ができて「ほんとにそうね」、「そうしたらいいね」そんな座談会はとても良いと思います。

出前公民館の様子
集まりやすく、話しやすい雰囲気

日野町人権センター（町教育委員会内）
電話　72-2107